

令和5年度 第2回地域包括支援センター運営協議会 会議要旨

開催日時：令和6年3月12日(火)13:30～14:40

開催場所：多治見市総合福祉センター4階大会議室

出席委員：山田隆司委員、後藤達彦委員、井澤賢禄委員、加藤元子委員、野々垣 直美委員
和田幸恵委員、加藤英治委員、長江一鶴代委員、櫻井きよみ委員

欠席委員：山田佐夜子委員

事務局：加藤福祉部長、前田高齢福祉課長、大中博、丹羽智裕、内山祐介、前原友美
包括支援センター(国立美保、関谷早苗、伊藤直美、水野千鶴子、棚瀬民依)

資料：【資料1】令和5年度重点施策への取組み 【資料2・3】令和6年度 多治見市地域
包括支援センター事業実施方針及び事業予算(案) 【資料4】6年度事業計画(案)
【資料5】令和6年度介護予防マネジメント業務委託事業所(案)

－会議要旨－

1. 部長挨拶

今年度は政権交代があり、新しい市政運営の年となった。また、市の総合計画、高齢者保健福祉計画の策定であり、4月からは計画に基づいて本格運営となる。高齢者が増える中、更に複雑化する問題に対し、地域包括支援センターは地域包括システムの中核機関として、地域住民の健康、福祉の増進のためしっかり対応をしていきたい。本日は皆さまよりご意見をいただき、今後のより良い活動に繋げていきたい。

2. 議事

(1) 令和5年度重点施策への取組み

<事務局> 資料1に沿って説明

<会長> 事務局の説明について、ご質問やご意見はありますか。

<委員> 緊急連絡先がない高齢者への支援について会議があるが、その様なケースはどの程度あるのか。

<包括> 数の把握はできていない。高齢者本人に家族がいても疎遠などで連絡が取れないことも多い。緊急通報システム、配食型見守りサービス等により何らかの情報を集めており、全く連絡先がないというケースは少数であるが今後は増えていくと考える。

<委員> 先日90代の老夫婦世帯で関わったケースでは、電話がなく本人とは連絡ができずヘルパーからの連絡で往診するなど1ヶ月間関わった。何のサービス利用もなければ孤独死となっていたであろう。今後の課題である。

<委員> チームオレンジの立ち上げ活動は何を目指しているのか。高齢者、認知症の方が増える中、広がりを持って地域でサポートする事が必要だと感じる。福祉委員、民生委員、災害時には消防団も含めた組織づくりをしていくとよいのではないかと。

<包括> 現在支援しているチームでは地域の組織員との関わりを持っていないが、それぞれの地域特性を活かしながら地区組織等と連携した支援を考えていきたい。

<会長> 他に意見、質問が無いようですので、令和5年度重点施策について承認します。

(2) 令和6年度 多治見市地域包括支援センター事業実施方針及び事業予算(案)

<事務局> 資料2・3に沿って説明

<会 長> 事務局の説明について、ご質問やご意見はありますか。

<委 員> 意見なし

<会 長> 令和6年度の実施方針と事業予算について承認します。

(3) 令和6年度事業計画(案)

<事務局> 資料4に沿って説明

<会 長> 事務局の説明について、ご質問やご意見はありますか。

<委 員> 意見なし

<会 長> 令和6年度事業計画について承認します。

(4) 令和6年度介護予防マネジメント業務委託事業所(案)

<事務局> 資料5に沿って説明

<会 長> 事務局の説明について、ご質問やご意見はありますか。

<委 員> 意見なし

<会 長> 令和6年度介護予防マネジメント業務委託事業所について承認します。

<会 長> 全体を通して何かご意見はありますか。

<委 員> 認知症サポーター養成等によって、より知識を持つ人を増やし、弱者に優しい街になると良い。

<委 員> 災害もいつ起こるか分からない。地域での支援体制として、福祉委員、民生委員と連携した活動を広げて行って欲しい。

<委 員> 業務が多い中、地域の特性や課題を見極め活動していくことは大切。今後も地道な努力を積み重ねて行って欲しい。

<委 員> 地域の繋がりが弱くなっている中、縦と横の繋がりをもっと強化し活動していくことが必要になっている。

<委 員> 地域の繋がりの見直しも課題であるが、若い世代を巻き込んで事業展開ができると良い。

<会 長> その他ご意見はありませんか。ご意見がありませんので、以上をもって第2回の会議は終了します。